



アバン仙台 Jr. Youth News

第25回
2016年 10月号

MJリーグ終了

～技術面の課題がのこりました～



今年度のMJリーグ全日程を終えての結果は8位で2部降格となりました。

一番悔やまれるのは前期の戦いぶり。サッカーけて通れない部分である競り合いやロングボールの処理がでず、そこを何度も突かれて失点を重ねてしまう試合を続けてしまいました。そこが大きすぎた分、他にも起きている様々な問題に向き合う時間がほとんどなく前期は終わってしまいました。ここから選手との地道な活動が続きました。



ロングボールや競り合いに関してはその後、後期までの中断期間でだいぶ克服できたと思います。その分後期ではもっと深い部分の差と向き合うことになりました。また、後期のアズーリ戦以外は勝ってもおかしくない試合ばかりでした。でも、結果的に試合終了5分前で失点し勝ち点を落とす試合が続きます。

この原因として大きいのは、スタミナ面ではありますが・・・

それを引き起こした原因は・・・「パス精度の低さ」

パスのズレから余計に動いてしまう回数が増えてしまい徐々にスタミナを削られました。

もう一つの原因は・・・「守備面の選手間での判断」

守備面で前線から激しく当たりに行くのか、それとも少し時間をかけてボールを奪うのか。この判断が全体もしくはグループ間で統一できなかったこと。ここを上手く統一できず相手の攻撃すべてに対して追いかけて回すプレーとなりました。

もし、後期の戦いぶりを前期にできていたとしたら降格はなかったと思います。もしそうであれば、後期には上記の課題をクリアして勝ち点を獲得できていたはずですが。しかし「たら、れば」を言わずに結果を受け止めて今後のサッカー人生にそれぞれ活かしていきましょう。

また、私たちコーチも新人チームの選手も、今回の結果を真摯に受け止めています。MJリーグを通して取り組み始めた技術的な部分、サッカーの中で基本となる戦術的な部分についてはチーム強化のため、中学生以降の選手たちのサッカー人生を考え、根気強くトレーニングしていきます。

後期リーグ結果

7月16日 (土)	VS	FC みやぎ 2nd	X1-2
7月18日 (月)	VS	八木山 中学校	O8-0
7月30日 (土)	VS	FC フレスカ	X0-2
8月7日 (日)	VS	コバルト ーレ	X2-3
8月20日 (土)	VS	仙 台 F C	X1-2
9月4日 (日)	VS	A C アズーリ	X1-8
9月10日 (土)	VS	エボルティ ーボ	X0-2
9月17日 (土)	VS	デュオパーク	△0-0

新人チーム

10月から2年生が主体となるクラブユース新人大会が始まります。これまではほとんど一緒に活動することがなかった1年生と合同で活動することになります。2年生には、現在GKがないので今回はすでに1年生のGK希望の選手を登録しました。ミスをしてもいいので思い切ったプレーをしてくれることを期待しているところです。

さて、この新チームの課題はどこになるでしょうか。2年生が帯同したMJリーグやクラブユース、1年生が戦っているU13リーグともにいい結果が伴っていません。心配なのは負け癖がついてしまっていないかどうかです。リーグを通して、それぞれ得点差が縮まっていたり、内容の面でも他チームに追いついているところはありますが、結果の所では依然臆きを隠せません。

一度「負のサイクル」に入ると解決するのはなかなか難しいものです。しかし難しいとはいえど、このサイクルを抜け出す方法はシンプルなことです。それは、...

『必死になって取り組むこと』

これ以外にありません。1・2年生ともに満足の出来ない結果を4月から過ごして来ました。この流れを断ち切るために必死さをもって努力しよう。

中2選手の中1の頃



中2選手たちが中1の頃、ドリブルを強化しました。昨年の新人戦では、現3年生たちとのこした9位という成績でした。今大会では成長を感じる内容と結果を求めて戦っていきます。1年生とのコミュニケーション、トレーニングを大事に一人ひとりがチームの中心となり試合に臨んでくれることを楽しみにしています。



1年生のみんな、夏合宿から取り組んできた基礎、攻守の切り替え後のボールコントロールの質、大会を通してチャレンジしていこう。

組み合わせが決まりました

Cグループは以下の4チーム:

FCみやぎ、デュオパーク、エスペランサ、アバン

要項:グループ1位・2位の8チームは1位～8位決定トーナメントに進出。グループ3位・4位の8チームが、9位～16位決定トーナメントへ。

※大会結果が来季のクラブユース選手権へ反映

新人大会への意気込み

浦山 晴希くん (中2)

自分は、ドリブルが得意なので、ドリブルをしてたくさん点を決めたいです。そして、常に必死でディフェンスをして、相手に自由なプレーをさせないようにして、チームを勝利に導いていきたいです。

1年生は初めての新人戦で緊張をしていると思うので、僕がチームを盛り上げて引っ張っていくという姿勢を心掛けて、チームに貢献したいです。



市川 翔くん (中1)

僕は今、U13リーグでキーパーをしています。怪我などもあり、フィールドプレーヤーの経験できました。その経験も活かして頑張ります。また、新人戦で良い結果を残せるよう試合に臨みたいですね。初の新人戦で緊張していますが先輩の力を借りながら精一杯頑張ります。



プレーを見直そう

全学年にしっかりと理解してもらいたいこと。技術とは何でしょう？、もちろんトラップ、シュートなどボールを扱うことですね。では必要な技術とは何でしょう？それは試合で役立つための技術です。

敵がいないう状態でクルクルと回ってみたり、軸足の後ろの方で動かすことや、それは何のための技術ですか？ 相手を翻弄するため、観ている人を沸かすため、別に悪いとは思いません。

しかし、この場合は練習した技術をどういった目的で試合に役立せるかの部分の間違っています。

では、試合をどうするために技術を習得するのか？当然試合でチームが勝つために技術を習得すべきです。上記の2つのプレーが試合でマイナスになるとは言いません。ただし、使う場面と場所をわきまえていれば...になります。

●大事なのは、**「縦パスを入れる場面を伺う」**
「ゴールを襲う」「縦に突破する」

以上の判断をした上でどのような技術を選択するかが試合に必要な技術です。もちろん人によって得意・不得意のジャンルがあります。

しかし、サッカーは簡単な技術の繰り返しです。その中で相手の予測を上回るようなトリッキーで予想外なプレーが活きてくるのです。

選手みんな、さあ！自分が励んでいる、あるいは習得しようとしている技術は一体何の目的のためにありますか？体育や遊びの中で周りに「上手い」と言われるためですか？それともチームを勝たせるために発揮される技術ですか？もう一度しっかり向き合ってみてください。

怪我と復帰への道

最近、選手の怪我が多く見受けられます。重症度によって離脱期間も長期にわたります。打撲や捻挫などサッカー選手としては経験のある怪我で、避けられないものもあります。

ただ、これらの怪我をした後のケアをおろそかにすると、その後の選手としての活動に大きく影響するので以下について知っておきましょう。

受傷直後から安静と二次的障害の防止を優先として受傷部分周囲の炎症を、コントロールしながら組織の修復を促し、機能獲得の身体的組織回復期があります。この時期の過ごし方が大事で選手としてメンタル的にも乗り越えるべき、復帰に向けて焦ってはいけない時期です。

● 「身体機能回復期」

患部に気をつけながら、筋肉の柔軟性や関節可動域、筋力といった復帰に向けた本来持つ機能を回復させていく時期。

● 「運動機能回復期」

患部へもある程度の運動ストレスを加えつつ、ランニングやアジリティ(敏捷性)といった復帰に向けた基本的な運動機能を回復させていく時期。

● 「機能・特異性回復期」

競技に必要な専門的な運動機能を回復させ、最高のパフォーマンスが出せる十分な条件を獲得していく時期。

以上の時期的な段階をクリアして復帰となるわけですが、おろそかにすると突発的に起きた怪我だけでは終わりません。繰り返しによる怪我、たとえば足首は捻挫癖、膝の怪我はかばうことで他の部位へ負担をかけ筋肉や関節の炎症や二次的な怪我といった悪循環を招きます。

コーチはその一人です。中学生で負った骨折後のケアがわからず捻挫癖がつき、その度に靭帯は損傷していきました。今では本気でプレーできる時間は短いです。担当医と相談しながらじっくり回復させてからの復帰をおすすめします。

村上コーチが夢中になった選手

コーチがプレーを見て最も夢中になった選手、元イタリア代表のロベルト・バジジョです。言葉で表すならば、「ファンタジスタ」以外ありません。イタリアで愛される選手の一人でした。

ただ上手いだけじゃない、何とも言えないファンタジーを持っていて、真似しようとしても誰もバジジョと同じプレーは出来ません。膝の手術を6度しながらも最後の最後まで柔らかなボールタッチと華麗な身のこなし、多くのファン、サッカー少年たちにファンタジーで魅了してくれました。

そんなバジジョの格好良すぎる名言の中からコーチが一番好きな言葉を紹介합니다。

今を戦えない者に、次とか未来を語る資格はない



イタリア代表ゴール数は56試合27ゴール。そのうち得点を決めた試合の成績は22試合中18勝4分で「バジジョが点を決めれば負けはない」という神話を持つ。有名なユベントス・ミラン・インテルで「10番」をつけた選手。

学業へ励む選手たちへ

受験生の3年生を筆頭に学業に励む選手の皆さんへコーチから英語の知識を一つ、『～しなければいけない』の使い方に must と have to がありますが、2つとも意味に違いはありません。しかし、否定形に変わるとニュアンスが変わります。“must not～”だと『～してはいけません』となり、“don't have to～”だと『～する必要はない』と変わります。理解できましたか？、ではコーチからこれを使ったメッセージです。

You must not get away from our (your) challenge !
You don't have to be afraid of our (your) goal !